

【2012.06.08 の話し合い】

★前回のまとめ

- ・見守る側：施設
- ・じじばば：家
- ・送る情報：定期的(通常時), 緊急時
- ・情報は施設で集中管理
- ・施設は 24 時間対応可能とする
- ・タブレットはライフログをとるためのツール
- ・緊急時は施設に連絡, 連絡がつかなければ
- ・タブレットに保存されているじじばば情報(氏名, 病歴など)を家のプリンタで印刷←緊急時, 家に救急隊が来た時にしゃべれない状態を想定したもの

■本日の議題：他のユースケースの存在確認, なければ話を詰める

1. 他にユースケースはないか

～♪ みんなで考えよ～タイム(10分) ♪～

【現状のユースケースまとめ】

● 通常時

- じじばばから送るもの
 - ◇ じじばばの一言メッセージ
 - ◇ ライフログ
- 施設からじじばばへ送るもの
 - ◇ ニュース
 - ◇ 家族からの写真

● 緊急時

- じじばばから送るもの
 - ◇ タブレットからじじばばの個人情報をプリンタへ
 - ◇ 施設へ緊急情報を送る

【疑問】

- ・施設側の現状を知らないけど…勝手に考えるべきか
 - ・どれくらいのペースで訪問するのか
 - ・どういうことができると便利だと思うか

- ・インタビューするとユースケースはもっさり出てきそう
- ・突き詰めるとしても、施設の実際の対応が気になる
- ・施設の情報があれば、施設が必要な情報が把握可能 → 送信情報をより実際的なものに近づけられる
- ・施設の仕事とは？
 - ・訪問介護は何をしている？
 - ・介護施設がやっていることは？
- ・介護施設を 10 数件回ったほうが説得力あるかな？

【介護施設・介護について】

- ・訪問看護
 - ・病気などを持っているひとの家に行って治療などをする
- ・訪問介護
 - ・健康だが、人の助けが必要なひとの家に行って介護をする
- ・施設は基本的に入居費など高い
- ・スタッフは 24 時間常駐
- ・介護には入居式と巡回型がある
- ・有料老人ホームは高額なため、一般的な人は入れない可能性高い
- ・一人当たり何人の老人に付いて介護するか

【詳しく調べる】

- 介護士について
 - 一人あたりの担当人数
 - 老人の管理をどう行っているか
 - 一般的な業務
- ・介護士・ヘルパが足りないから老人が介護してもらえない → 孤独死
- ・介護士・ヘルパの負担を減らせれば、孤独死やコストを抑えられる
- ・介護施設に入れない老人(待機高齢者)
 - 2009 年に痴呆症 全国 41 万入居
 - 軽度の痴呆なら全国に 150 万人いる。圧倒的に需要に足りない
- ・待機高齢者：全国で 41.2 万人

- ・訪問介護の問題点：長期滞在できない
- ・老人ホームに入れる人が少ない

【今回の開発背景に繋がるポイント】

- ・老人ホームの数が少ない(老人の方が圧倒的に多い)
- ・老人ホームの入居費用が高い
- ・有料老人ホームは高い → 安い老人ホームに入りたい → 入れない → 待機
↓↓↓
- ・訪問介護が増えた
↓↓↓
- ・人手が足りない → 外国人ヘルパの登場 → but,すぐ辞めちゃう
↓↓↓
- ・一人で複数の老人を介護(5~8人)
↓↓↓
- ・管理が大変

- ・入居条件の優先順位：1. 寝たきり
2. 担当介護士がいない
3. 施設と市町村が同じ
↓↓↓
- ・老人ホームには、元気な老人は入れない

- ・特別養護老人ホーム(保険適用可能, しかも安い)
↓↓↓
- ・みんな行きたがる
↓↓↓
- ・待機が出る

- ・介護の現状
 - ・1人あたり5人~8人の老人を介護(老人50人に対し, 介護士は8人:2006年付)
- ・外国人ヘルパ:介護になるために入国, しかしすぐ辞めてしまう ← 介護の問題点

- ・孤独死の原因：身寄りがないから
 - 周辺住民との交流が希薄(倒れても誰も気づかない)
 - 金がないからヘルパが雇えない

- ・訪問介護と地域ボランティアがどういう情報を欲しているか
 - ・ヘルパがコロコロ変わる → 引き継ぎのための情報が必須

- ・ヘルパ支援っぼくなってきたけど…
- ・出力先がヘルパ側だから、必要な情報があれば、孤独死予防に繋がる可能性がある
- ・ヘルパ側に必要な情報を固めれば、老人の支援に繋がる？
 - ヘルパの支援 → … → 老人の支援？
- ・管理に重点を置くのではなく、老人との連携
- ・ちゃんと老人の情報を管理できる ≠ 孤独死を予防できる？
- ・ソフトゴール「孤独死を防ぐ」→ 下位ソフトゴール「介護士の支援」
- ・一人当たりの面倒を見る数が増えれば、増えた分の人数は救われる
- ・孤独死を予防 → 訪問介護利用推奨 → 人数足りない → 介護士の支援

- ・複数人を管理するのか、一人をちゃんと管理したいのか
- ・一人ひとりの管理の質はないがしろにしていいの？
 - 出力する情報により洗練 → 複数の管理にもつながる
- ・一つ一つが良くなれば、全体として良くなる
- ・人手の足りなさを補う、複数担当を支援
- ・待機する老人も、情報を送るだけなら増える
- ・訪問はしなくても、健康状態だけなら把握してあげられる
 - ・お金が足りなくても対応可能な新しい介護
 - ・みんな把握できれば、孤独死の率は下げられる可能性大

【まとめ】

背景：・現代社会では孤独死が多い

- ・訪問介護が推奨されている

原因：・親族が近くにいない，周辺住民に無関心，高齢者である，慢性疾患を患っているにも関わらず独り暮らしをしている。

- ・老人ホームの入居費用等が高く，介護を受けられない
- ・介護の人手が不足している

アプローチ：・ヘルパの労力を減らす

提案：・人手の足りなさを補う，複数担当を支援

- ・待機する老人も，情報を送るだけなら増える
- ・訪問はしなくても，健康状態だけなら把握してあげられる

期待効果：・管理が楽になり，訪問介護を受けられる老人が増える

- ・緊急時の対応も考えることで，命の危機も管理
- ・紙のみの管理の老人とかも増えたら，訪問介護の新しい方法になるかも

★中道チェック

・ヘルパの労力を減らしてあげる → 孤独死防止？

・労力って？

- ・寝たきりの場合，ヘルパを呼ぶのは，周りの掃除とか
- ・介護等級（どのくらい介護が必要か）によって，やることが異なる

・孤独死多いから，ヘルパの労力減らす??

・「労力」の具体的イメージは？

・「労力」 = 一人一人の健康管理 = 管理負担

・

【次回の議題】

・管理するものは何か？インタビューする必要ある？

・インタビューして，今までやっていたことを実現？新しいことを実現？

・どこまでガチでやるか？